

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No.100

2011年6月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



撮影 戸塚 10.5.2

巨樹の診断を行うメンバー

「巨木にも大切な

健康管理」

巨木リサーチ2事業

猪野

年郎

牛久の巨樹について診断をした。巨樹の大半は神社の境内にある。一部旧家の屋敷内にも残っている。大半の巨樹は、立地、光環境など概ね良好な環境の中にある。だからと言って、それらの巨樹がすべて健全に生育しているとは言い難い。

ほとんど自然のままに放置され、管理がなされないまま生育してきたと思われるものがほとんどであり、枝枯れや幹の損傷、落雷など自然現象による損傷なども見られる。

少し注意して管理をすれば、枝枯れからの腐朽の進行を回避できたり、光環境の管理によって、樹木自身が自力で十分健全性を保つことができたであろうものも見られた。

いずれにしても、長い時間を生き抜くためには、すべてが平穏と言うわけには行かない、色々な障害を乗り越え、ここにその巨樹が姿を留めているのは、ある意味苦難を乗り越えた勲章かもしれない。

しかし最近これらの巨樹に接すると、幹の切断や大枝の切り取りが行われ、急激に衰退をしているものが見うけられる。大きな衰退の原因は人の手によるものが多く、さみしく、悲しい思いがするのは私だけだろうか。

数百年を生き延びてきた樹木は、一度失うと、どのような高額な予算を準備しても、また、どのような技術をもつても再生することはできません。少なくとも数百年という気の遠くなるような時間がなくては再生することができないのです。

その場所で、じつと数百年の時の移り変わりを眺めてきた巨樹達に、尊厳さを感じ、畏敬の念を持って大切に見守って行きたいものです。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト 活動報告



親子農業体験講座

小山 直樹

今年もスタート「ジャガイモと里芋の植えつけ」

四月十七日、平成二十三年度の親子農業体験講座がスタートしました。暖かな春の日差しのもと、下は一歳から小学二年生の子どもたち、約三十名の親子が集まり、顔を合わせました。この度の東日本大震災の影響により、開講が二週間遅れましたが、無事この日を迎えられ、とても嬉しく思います。

開講初日の作業はジャガイモの植えつけです。今回植えるジャガイモの品種は、男爵、メークイン、シャドークイーン（紫色の芋）、さやか、の四種類。畝作り班と種芋準備班の二手に分かれ作業を進めました。

まずは畝作り。体力に自信のある男性陣は鍬で畑を力一杯耕し畝を作りました。種芋準備班は、種芋を包丁で二、三等分に切り、切った種芋の断面に灰を付ける作業を行いました。

植えつけは、約三十センチ間隔、芽を上を向くように置き、種芋の間には、豚ふんと化成肥料を施し、無事植えつけが完了しました。散りゆく桜を眺めながらの親子での農作業。皆さんいい汗をかかれていたようです。

四月三十日、第二回目は里芋の植えつけを行いました。里芋もジャガイモと同様、芽を上に向け五十センチ間隔で植えます。去年の里芋は天候の影響で不作でしたので今年は豊作を願いました。

その後、畑そばの竹林に、竹の子の試し掘りに行



きました。子どもたちは、皆、竹の子、竹の子と大きな声を張り上げ大はしゃぎ。大人の私も、心の中で大はしゃぎ。期待に胸を弾ませスコップを持って竹林に・・・。

「あった、あったよ！」と子どもたちの声が響きます。土からひょっこり顔を出した竹の子は宝物のように光輝いて見えました。収穫を皆で分かち合い、子どもたちも大満足の様子でした。

またこの日は、炭焼き小屋で里山の会の方が竹炭作りをしており、お土産に竹搾液を頂きました。竹搾液は、竹炭を作るときの煙を冷やし、採取したもので、虫除けや入浴剤になるそうです。天然で安全、人にも地球にも優しく、貴重なものを頂きました。

今年で三年目の参加となる私たち家族は、親子農業体験を通し、自然とふれあうことで、季節感、実りや収穫、自然の恵みといったとても貴重な体験をさせてもらっています。今回、植えつけたジャガイモ、里芋も自然の恵みを十分に受け、大きく成長することを期待し、

秋の収穫を待ちたいと思います。



親子で楽しむジャガイモの植えつけ



雑木林応援隊

竹越 敏雄

雑木林応援隊・畑隊の近況

応援隊

四月二十九日の活動報告

今冬の最後の炭焼きを実施しました。この冬は四回の予定でしたが、三回目の三月実施予定が雨のため中止。今回がこの冬の最後の炭焼きで木炭です。前回の定例活動日でコジユケイのコナラの木を四本切倒しました。これは、「コナラ枯れ」対策のひとつとして、古い木を伐採、残された根株より萌芽更新をさせ、森林の再生を図る目的で間伐を実施した木を使用しました。

初日は、お正月に



萌芽更新されたコナラ

焼いた竹炭の窯出し。少し湿り気味ではありませんが、立派な竹炭が焼けていました。窯出し後、窯の内部を点検。一般の地震で破損個所が無いかの確認です。点検した所、破損もなく無事でありました。今年で十六年目の炭窯。毎回炭出し後に内部を点検・補修を繰り返し此処まで壊れず維持して使っています。午前中には、炭材の詰め込みが終わり、火を入れる。これから三日間の炭焼きが始まります。夕方、四時過ぎた所で、本日の炭焼きは終了。大きな生木を焚き口に置き、その上にトタンを被せ、煙突は閉じて帰宅する。

翌二日目は、朝からひたすらに燃やし続ける。三日目の午後、やっと煙が透明に近くなったので、

窯の焚口をレングア一個分に仮閉じをする。後は、自熱にて更に温度を上げる「ねらし」の段階へ。

翌朝、完全に窯閉めをして、今回の炭焼きは終了しました。

このまま、夏を過ごし、秋まで炭窯は封印されます。中の炭は、次回の炭焼きまで湿気取りの為入れたままです。次は秋なので、その時まで出来上りの確認はお預けです。

四月三十日の活動報告

炭焼きの一方、昨年五月から始まった「観察の森」正面道路のコジユケイ側の垣根補修作業の続行。前回活動時に残す所二十mほどが、一年越しでの作業でしたが終了。およそ二百mの垣根が完成しました。奇麗に見事な垣根に変身しました。

畑隊

本年度は十一名でのスタートです。

六月活動予定

(毎週火曜日) 九時三〇分〜一二時

夏野菜の植え付けと種まき・藍の植え替え。

応援隊・畑隊とも見学者大歓迎です。時間が有れば是非参加下さい



一年越しで完成した竹垣



里山自然観察隊

平塚 芳雄

モニタリング1000里地調査、二年目に調査二年目に入って二回目となる五月のモニタリング1000里地調査を五月十四日(土)に参加者四名で実施。天気は晴れ、日差しの強い日でしたが湿度が低いためか汗をかくほどのこともなく無事に終了できました。

午前九時過ぎ何時ものように集合場所である得月院前駐車場から調査を開始。所定のコースを巡る。コース沿いの水田では田植えがほぼ終了。この時期は植物生育の最盛期、蕾を付け、開花し、実を付け始める種も多数。調査対象も一段と増える。それだけに調査には時間が掛かる。又、調査に難儀な蚊も発生。牛久城址の山林内ではやばやと出会う。今回も種の同定が難しいものがあり図鑑等での調べに時間がかかり、ゴールである出発地の得月院前駐車場に戻ったのは午後一時過ぎ、四時間近くを要した。

今月は今進めているモニタリング1000里地調査の昨年度一年間のデータ整理のことについて報告します。

観察隊はこの一年間、月一回環境省生物多様性センターが進めている「モニタリングサイト1000里地調査(植物相)」において同センターが示している調査基準に従った植物調査を実施してきました。

調査場所は市内城中町の三キロメートル程のコース。ここを適当な距離で七区分、更に、そのうちの四区分については環境の違い(集落内、山林・竹林内、水田畦道、畑道、原っぱ、斜面林下等)により内訳区分をしている。その区分毎に調査時点において蕾を付け、開花し、実を付けている

植物種、シダ植物については孢子を付けている種をリストアップし記録する。

現在、過去一年間の調査結果を植物の種類毎に生育している場所と発生確認月を一覧できる形に整理。未だ種名等不確実なものもあるので十分な整理とは言えないが一応の状況を知ることができます。確認した植物の種類は約三百八十種。その季節の短い期間だけ確認できる種。季節をまたがって長い期間確認できる種が分かります。

自分達が今住んでいる地域に生育している植物の種類、その生活、昆虫や野鳥、人間を含むその他の動物との関わりなどを知ることが出来ます。確認しみを増し、愛着が深まると共に、自分達が住んでいる自然環境を今後どのように保全していくべきか考えるベースにもなると思います。これからこの調査活動を続け、身近な自然をより深く知り、里山保全につながる活動にしたいと思っています。



観察隊に植物調査の情景



あやめ受託事業報告

坂 弘毅

アヤメ園現況

平成二三年度のアヤメ園管理業務がスタートしました。今年も昨年のように満開にしたいとメンバー張り切っています。

五月を過ぎると、ハナシヨウブの生育と共に雑草の生育も異常なほど早く、連日雑草との闘いです。受託が始まった六年前、雑草との闘いに途方に暮れたことを思い出します。しかし、現在は除草の能力も大幅に向上し、腰の痛みは感じるものの、要領よく丁寧に除草作業は進んでいきます。

四月の終わりから農薬用水の注水が始まりました。小さな流れは春の小川のような姿に変貌、絶滅が危惧されているメダカやドジョウが気持ちよく泳いでいます。そしてノシメトンボが産卵、ニホンアマガエル、トウキョウウダルマガエル、アカガエル、ウシガエルの合唱がのどかな情景を醸し出しています。

アヤメ園ではアヤメの開花はすでに終わり、カキツバタが咲き出しました。しかし、アヤメ園の主役である、アヤメ科の女王ハナシヨウブはやつと蕾が出てきたところです。本格的な開花は六月中旬でしょうか。

アヤメ園の今年の課題は「連作障害」の検討です。アヤメ科の植物はこれまで連作障害の報告はなかったとされますが、近年連作障害があると業界でも問題視されるようになりました。そこで、牛久観光アヤメ園も土壌改良や植物活性剤の投入など年間をおして検討して参りたいと思います。

今年は、更に、圃場が二千平米拡張されましたので、株分けによって埋め尽くしたいと考えています。これまで水田であった場所ですから、ハナシヨウブにどれだけ刺激を与えられるか、連作障害の切り札となることを期待しています。

牛久観光アヤメ園はうしく里山の会が受託して七年目に入りましたが、周辺の景観は大きく変わろうとしています。

三月：スイセン

四月：桜のトンネル(ソメイヨシノ)

五月：アヤメ、スイレン、フジ

六月：アジサイ、ハナシヨウブ

七月：ハンゲシヨウ、ノカンゾウ

九月：ヒガンバナ(現在一万株)、ハギ

四季折々

のアヤメ園に是非お出でください。



見事に咲いた時もありました 「カキツバタ」



自然観察出前講座
石神 良三

ヘイケボタル保全活動四年次のスタート

継続は力なり
向台小学校（五年生）と、牛久自然観察の森との協働事業として取り組んでいる活動も、今年度で四年目となります。

さる四月二十六日、第一回目の活動となる「ヘイケボタルの生態と生息環境」についての学習会を実施しました。

先輩たちの保全活動の姿を、二年生のときから見てきた子ども達は、とても熱心で意欲的でした。学校の玄関近くの廊下には、前年の活動の様子が写真を中心に掲示されていました。全ての子ども達が関心を持っていくことがうかがえ嬉しくなりました。

保全活動をけいぞくすることの意味と、その大切さを実感させられました。

自然や生きもののつながりに気づく

連休明けの五月六日、生息地の観察を行いました。

子ども達にとつては、教室で学んだ知識をより具体的、体感的に学ぶ貴重な経験と成りました。

年中途絶えることのない田んぼと湿地の水、そこに生息する生きもの。



代々米作りを続けている
鈴木さんから話を聞く子どもたち

高木で構成される原生林に近い斜面林とわき水。昔から変わらな

い田んぼと米づくり。などのつながりに

気づくことができたようだ。これからの活動の土台となるに違いない。

田うえ美体験で保全の一步

五月六日、生息地の観察会と併せて、全員参加で田うえを行いました。

今回は、田うえの前に、江戸時代からの田んぼで代々米づくりを続けている鈴木さんのお話を聞くことができました。

谷津田の由来や米づくりの方法など、今も昔と変わっていないことなど、子ども達も興味深くうなづいていました。

田うえに入り、素足で田んぼに入るのが初体験という大半の子ども達は、不安気に泥の中に片足を入れては、「冷たい」「ヌルヌルだ」「気もち悪い」などと大さわぎ。そして一歩二歩と進むにつれて

「気もちいい」という声も飛び交うようになった。きつと生涯忘れられない体験となるだろう。

今後、子どもたちは、生きものの調査、除草、成虫観察、稲刈りなど、楽しさいっぱいの活動が続きます。



泥にまみれて苗を植える子どもたち

一般寄稿

佐藤 輝雄

日本一の巨木（スタジイ）を訪ねて

今回、五人のメンバーで日本一のスタジイを訪ねて、五月十六日～十八日、伊豆七島の御蔵島に行ってきた。

十六日、東京・竹芝ターミナルを二十二時二十分東海汽船で出航し、翌朝六時御蔵島に到着する。当地で宿泊する「村宮御蔵荘」の車が港に迎えにきてくれた。

持参した朝食をとり、午前中は自分達で島の中を適当に散策する。

午後、予約した現地のネーチャーガイドと合流する。予想していたのは中高年の男性。しかし、反して若い女性のガイドに心が和む。

ガイドの車に便乗し、御蔵の森の案内が始まった。御蔵島は「おにぎり」の形をした島で上り下りの坂道のみ、中年には辛い行程である。

島では山に入る前に「草祀り神様」に挨拶をする習慣がある。山の入り口に神様が祀られていて、山に入る人は草木の葉を一枚採って祠の前に葉を置き、

風で飛ばされないように石をのせておく。そして、山から下りたときにその葉を取り除く。夜になって

も葉が残っていたら、誰かが山にいたことになり村の人達が捜しに行く。今でもその習慣は残っているそう。

御蔵島には、スタジイの巨木が五

本以上あり、幹周五m以上の巨木は一本以上ある巨樹島である。



草祀り神様
手前の石の下には葉が



立派な板根に着生している
オオタニワタリ

御蔵島はエコツーリズムの島になっ
ていて、基本的
には島内を歩く
ときはガイドを
つけなければな
らない。
前に述べた通
り御蔵島は「お
にぎり」のよう
な島であり、

間もな
く日本一
の「御蔵
の大ジイ
(スダジ
イ)」と
出会うた。
幹周十三・
八mの巨
木である。(ただ、私の印象では数本の幹で構成さ
れているため巨木という感じがしなかったが、老木だ
な」との第一印象であった)。板根も立派である。
老木にはいくつかの絶滅危惧種「オオタニワタリ」
が着生していて、南国を思わせる光景でもある。根
元近くの地面には「オオミズナギドリ(渡り鳥)」
の開けた大きな巣穴があちこちに見られた。スダジ
イの幹に縦に擦れたような跡が見られる。説明によ
ると「オオミズナギドリ」は崖から飛び降りるよう
にして飛ぶため、山中ではスダジイの木によじ登っ
て飛び降りること。
翌日、同じガイドさんに島内の案内をお願いした。



日本一の御蔵の大ジイ



緑鮮やかなヤマグルマの葉

御蔵島を離れ
るときネーチャー
ガイドの方、宿
の何人かが、
港で私たちを見
送ってくれた。
心温かい島の人
たちである。

最高点は八五 m。今日はその高さまで散策する
(散策というより登山)。登るにつれ、強風のため
に身の丈より高い植物はなくなる。本ツゲ(私たち
の近くにある庭木はイヌツゲ)も 1 cm位の太さで
一 二 年経っているようだ。更に登ると
「ミクラコザサ」に覆われた山肌。細い枝の先に葉
が丸くついているヤマグルマ、ヒサカキ、シキミ、
ハコネコメツツジ等が多くみられた。
御蔵島は五千年前の火山島で頂上付近には溶岩ド
ム形成も見られる。
帰宅してから知ったことだが、ナラ枯れの「カシ
ノナガキクイムシ」に御蔵島も被害にあっている約
二 本のシイの木が枯れているとのこと。現地に
いるときはわからなかった。
また、東日本大震災の時の津波の様子を聞いた。
村民は警報と共に高台から海を眺めたが、ほとんど
わからなかったようだ。というのは御蔵島には「ナ
ライの風(北東の風)」というのがあり、津波より
も「ナライのうねり」のほうが凄いようである。従っ
て船の接岸率も冬で二割三割、夏でも六割七割で私
達は予定通り行動ができ、かなり運が良かったよう
である。

理事会からのお知らせ

坂 弘毅

第七回通常総会の報告

五月十五日(日)午前十時より通常総会が執り
行われました。

上程された議案は全て承認され
ました。会員の皆様のご協力あり
がとうございました。

今年度は会の財務体質改善のた
め「収益事業」開始の初年度とな
ります。森の恵み(間伐材や木の
実等)を活用したグッズの制作
や講習会の開催、市内大型イベントに於ける出店
など積極的な展開を図って参ります。
通常総会后、総会出席者有志によって、日頃お



世話になっていている結束町の清掃
作業を行いました。地元の方々
が日々清掃を行っているため、
ゴミは比較的少なく、四五リッ
トルのゴミ袋で五袋が回収され
ました。

通常総会後の臨時総会の報告

午後から臨時理事会が開催され、今年度の理事
の役割が決定しました。

- 代表理事 坂 弘毅(重任)
- 副代表理事 石神 良三(重任)
- 副代表理事 阿部 幸浩(重任)



牛久自然観察の森だより

チーフコーディネーター 齊藤 孝

ゲンジボタル鑑賞会ボランティア募集

今年も自然観察の森園内でゲンジボタルが舞う季節となりました。今年は二日間、ゲンジボタル観察ポイントでのボランティア（参加者の方が安全に観察できるように通路で見守る役割です）を募集いたします。各日の鑑賞会開催時間及びボランティア活動時間は次の通りです。



鑑賞会日時

：六月十一・十八日（土）

午後七時三十分～八時三十分（雨天中止）

ボランティア集合

集合 午後六時三十分、解散 午後九時

ボランティアは二日間のうち一日でも結構です。

ボランティア申込方法 六月十日（金）までに牛久自然観察の森（担当齊藤）まで電話にてお申し込み下さい。

（問合せ先） 029-874-6600 担当：齊藤



結束町みどりの保全区

Eコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区Eコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の

牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「Eコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。



皆様のご参加お待ちしております。

六月の活動日時

三日（金） 午前九時～十一時半

十九日（日） 午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

（予約不要／荒天時は中止）

ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手（長袖、長スボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当：石神

身近な樹木

No. 3
マユミ



よく見られています。

ふつう高さ三～五mほどになります。樹皮は灰褐色で、老木になると写真の右端のように縦に筋が入って少し裂けます。葉は対生し、ふちには細かい鋸歯があります。葉身は長さ五～十五cm、幅は二～八cmの長楕円形です。

花は五～六月、本年枝の葉より下から集散花序をだし、緑白色の小さな花を一～七個つけます。花は直径約1cm、花弁・雄しべとも四個です。

果実は蒴果（サクカ）で、写真左側のように直径1cmほどの倒三角形で四個の稜があり、十～十一月に淡紅色に熟します。熟すと四裂し、橙赤色の仮種皮に包まれた種子が顔をだします。

和名マユミは漢字の真弓で、この木が硬くて柔軟性があり、昔、弓を作ったことに由来します。

（村尾重信）



マユミの幹と若い果実
08.6.25

2011年 6月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	3 里山保全ボランティア 9:00NC クラフトプロジェクト 13:00NC	4 親子農業体験講座 9:00畑
5 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関	6 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7 森の畑 9:30畑	8	9 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	10	11 里山自然観察隊 (モリノリ地調査) 9:00得月院P
12 雑木林応援隊 9:00炭屋 (会報等原稿不切)	13 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	14 森の畑 9:30畑	15	16 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	17 クラフトプロジェクト 13:00NC	18 親子農業体験講座 9:00畑
19 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC	20 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	21 森の畑 9:30畑	22	23 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	24	25 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関前 チーム'街路樹2Q受 13:00市ボランティアC (交流会)
26 雑木林応援隊 9:00炭屋	27 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	28 (休園日) 会報発送 13:00NC	29 森の畑 9:31畑	30 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P		

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページ)のお知らせ欄をご確認ください。

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジユケイ: 牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受託事業
(特): 特別事業



編集後記

牛久周辺では東日本大震災の田んぼへの影響も少なく、五月連休からの田植えも終わり六月の初夏の季節になりました。

六月(ろくがつ)三十日(みそか)は年(とし)の臍(へそ)。六月三十日は一年のちょうど真ん中にあたる。正月から半年経ったということ。

六月無礼(ろくがつぶれい)陰暦六月は、暑さが厳しいので服装を略式にする無礼は許される。

今年の夏は節電対策のため、許される服装で過ごす人が多いと思います。

旧暦六月を水無月(みなづき)と呼び、現在は新暦の六月の別名ともなっています。水無月の由来は田んぼに水を張る月「水張月(みずはりづき)」「水月(みなづき) 田植えという大仕事を仕終えた月「皆仕尽(みなしつき)」「梅雨で天の水がなくなる月、等あります。

先日、牛久観光あやめ園で作業をしていたら、あやめの絵を描く人、写真を撮る人がいました。ひとりの人に、この花は「アイリス」ですか?と問われ、日本の「アヤマ」ですと答えました。

「アイリス」、調べてみると、アヤマ科イリス(アヤマ)属(ギリシャ語で虹を意味する)。これをアイリスと呼んだとありました。

「ジャーマンアイリス」と「ダッチアイリス」の二種類があり、

「ジャーマンアイリス」 ドイツあやめ・アヤメ科・地中海原産で根茎

「ダッチアイリス」 地中海原産で球根・オランダで品種改良される。ダッチとはオランダのこと。

アイリス・アヤマ・花菖蒲・カキツバタ、みなアヤマ科です。(ウィキペディア)

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年7月号の発送は6月28日(火)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。